

女性研究者研究活動支援事業（一般型）

(実施期間：平成 26～28 年度)

実施機関：杏林大学（総括責任者：跡見 裕）

プロジェクトの概要

男女共同参画推進室（室長・副室長・支援コーディネータ・カウンセラー・事務員2名の計6名で構成）を設立し、「ライフイベントやワーク・ライフ・バランスに配慮した両立支援」と「女性研究者の裾野拡大・研究力向上」を全学的に推進する。具体的な取組は、ライフイベント支援制度活用の奨励、出産・子育て支援ナビと介護支援ナビの運営、復職支援策の拡充、ハラスメント防止対策、柔軟な勤務制度の運用、女性研究者採用・キャリア継続支援の意識啓発、人事を含む組織運営への女性参画拡大、進学相談体制の強化、メンターによる個別指導等である。また「研究活動支援者制度」を発足させ、学生・若手研究生等を研究支援員として配置する。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	実施体制	実施期間終了後の取組の継続性・発展性
A	a	a	s	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

自治体と連携しつつ、きめ細やかな出産・子育て支援を進めるとともに、アンケート調査の分析結果を踏まえ、多面的な介護支援を実施し、出産・子育て・介護を理由とする女性研究者の離職を皆無とした。また、学長のリーダーシップの下、学内の意識改革を進め、医学部の3名の女性教授を含め、機関全体として女性教授を7名、准教授を6名増加させ、女性研究者の上位職への登用を積極的に進めたことは評価できる。これら女性研究者活躍促進の取組の成果により、自治体から表彰を受けるなど外部からも高い評価を得ている。今後は、研究力強化の取組の成果により、女性研究者による競争的研究資金獲得件数が増加することを期待する。

- **目標達成度**：女性研究者在職比率をはじめ、女性上位職数や女性研究者による科学研究費申請数の増加、ライフイベントによる女性離職者ゼロ等の目標をほぼ達成したことは評価できる。女性上位職数の増加については部局により偏りがあり、今後は総合政策学部における増加を期待する。また、研究力向上の取組の観点から科学研究費の申請数のみならず採択数の増加を期待する。
- **取組**：全学アンケート調査の分析結果から女性研究者のニーズをよく把握し、また、地元自治体とも連携することにより、男女共同参画に係る意識啓発や保育支援、介護支援を効果的に展開し、女性研究者の活躍促進のための基盤を整備したことは評価できる。
- **取組の成果**：女性研究者の活躍促進に向けた組織全体としての機運が醸成され、女性研究者の採用や上位職への昇任が進み、医学部においては新たに3名の女性教授、全学では7名の女性教授が誕生したことは高く評価できる。また、機関内のみならず地域における女性研究者の

活躍促進を主導したことが評価され、地元自治体から表彰を受けたことも高く評価できる。

- **実施体制**：学長を委員長とする「女性・若手研究者研究活動支援委員会」を創設し、同委員会の下、「男女共同参画推進室」と「研究推進センター」が自治体とも連携しつつ、取組を推進する体制を構築したことは評価できる。また、第三者評価機関を設置し、外部チェック機能を活用したことも評価できる。
- **実施期間終了後の取組の継続性・発展性**：実施期間終了後も、十分な予算を確保し、コーディネーターや事務員を継続して雇用し、取組を継続しており評価できる。また、法人の中長期計画に取組の継続・発展を組み込み、今後の展開を決定していることは評価できる。